

ともえ No. 81

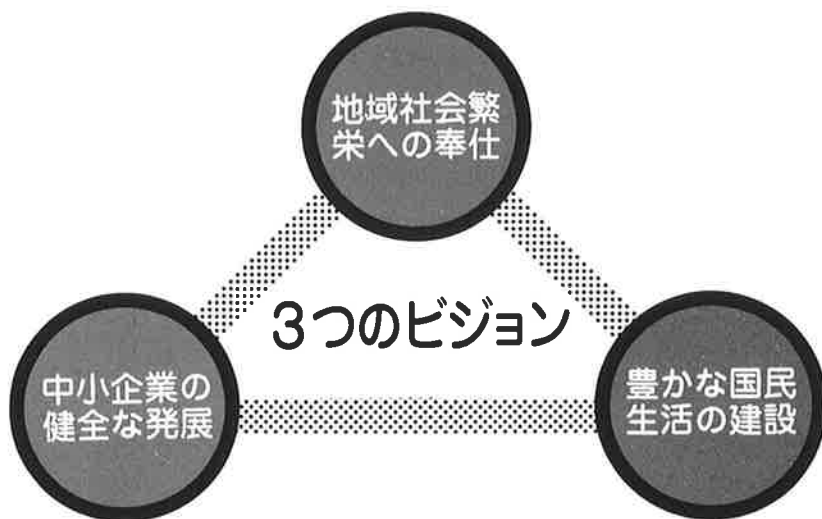


'88 青函博 みんなの力で成功させよう!



■ 函館商工会議所報 ■
1987 11月号

行動する
はつらつたる
商工会議所



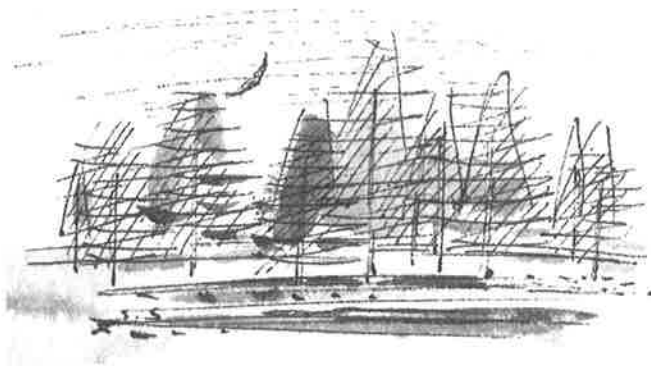
はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

視点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
Q & A	16
青函博コーナ	18
新会員ご紹介	19
ティータイム	20
ご案内	22



● 視 点

例年になく暖い秋だと思っている内に、今年もあと一月余りを残すのみとなりました。

今年は、会員そして議員各位の絶大なるご協力により、行動する会議所として、前へ進むことができた年であると思います。例えば、新年早々からの青函博主催者負担金や前売入場券のお願い、三月の青函博を成功させよう会の発足、そして四月にはみなみ北海道広域商工振興連絡協議会も設立、民間側からの青函博への協力体制も整いました。八月には全道商工会議所に対する前売入場券のお願いと、青函博の広報をかねて当所宣伝隊が全道をまわりました。また、港まつりを間にはさみ、青年会議所を中心とする、若者集団が青函博のプレイベントを趣向をこらして実行しました。

一方、函館山ロープウェイ大型化のための工事も着工されましたし、昨年実施された駅前商店街や鉄工業界の診断についての報告会もなされ、進むべき方向が示されました。これらの情勢を反映してか、市内の景況は月を経るごとに好転し、総じて回復基調にあるといえますよう。

新しい函館の幕明けの準備は整えられつつあります。希望のもてる明るいあすの函館、それはまずそこに住む人々が自ら努力することが何よりも大切です。自らが努力しないでは、他人の援助は期待できません。今年は、この自助努力の一端がはつきりと見えたと感じます。新しい年はさらに飛躍のために一層頑張りますよう。

会 議 所 の 動 き



本所主催 第29回優良商工従業員表彰式

第二十九回函館商工会議所優良商工従業員表彰式は、十一月十二日（木）午後三時から、市長・市議会議長・渡島支庁長をはじめ多数の来賓の臨席のもとで、拓銀ビル八階ホールで開催、六十九事業所から二百五十六人が表彰を受けました。



主催者を代表し挨拶に立った川田会頭は「来年は青函トンネルが開業し、これを記念しての青函博が開催されるが、経済界にとっても青函の交流による新時代の幕開けの年であり、新たな対応が必要になる年です。皆様のこれまでの経験と英知を結集し、新時代に立向かっていただきたい」と挨拶。

これに対して受彰者を代表し隅田勝雄氏（函館船具備）から「大過なく本日の表彰式を迎えることができたのも、事業主をはじめ職場の同僚等の理解があればこそ。今後も初心を忘れずなお一層努力を積み重ねます」と謝辞が述べられました。

当日の表彰者は次の通り。

◎勤続四十年以上

菊地善吉（北海道日産化学㈱）

隅田勝雄（函館船具備）

幸正光雄（函館船舶装備㈱）

福田喜久松（同仁会佐々木病院）
◎勤続三十年以上

仙北宏（前岡製綱㈱函館工場）

玉川英勝 石村正三（函館合同青果㈱） 渋谷精作 豊島新平

能城炊平（日本化学飼料㈱） 斉藤勝治 菅朝光 垣内照男 相田啓价 松井和夫 中川治（北海道日産化学㈱） 佐藤一彦 阿部鉄義（十字街むさしや商店）

鎌田桂子（栗野村水産工業㈱）

山崎義郎（五島軒） 金田博

浦崎憲七（函館船舶装備㈱） 須田庸以 品川晴男（丸丸井今井函館支店） 迫康雄（室崎）

清水清 内田充（古清商店）

苦米地美徳 山尾隆一（西野事業） 森本勇吉 樋詰重光 江川邦子 佐藤作蔵 谷口千鶴子 小川重幸（函館信用金庫）

◎勤続二十年以上

（三十九事業所八十八人）

代表 佐藤涼子（函松本工業所）

◎勤続十年以上

（四十一事業所百三十三人）

代表 大矢末子（銜企鈴木商事）

（十・二十年は代表者のみ掲載）

寺山道審議室長来所 正副会頭との懇談会開催

前渡島支庁長で、現在北海道総務部審議室長の寺山敏保氏と出葉渡島支庁長は、去る十月二十八日、当所を訪問し、正副会頭と懇談しました。

この懇談会は、道の新長期計画推進に当たり、各ブロック（道内六ブロック）拠点都市の懸案事業について意見聴取の目的で開催されたもので、懇談の中で本所から



経済界の立場としてポスト青函博を踏まえ、次の項目について、その実施協力方を強く要望しました。

- 一、高速交通網の整備。
- (一) 新幹線鉄道の建設。
- (二) 北海道縦貫自動車道と高規

青森商工会議所青年部と 本所議員との懇談

青森商工会議所青年部（一行三十五名）と本所若手議員（九名出席）による初の交流会が、去る十月二十四日五島軒駅前支店で開催されました。

これは、青森商工会議所青年部の申し入れに対し、本所では青年部組織がないため若手議員との懇談としたものです。

当日は、国土庁が策定した四全総のインターブロック構想（圏域

格道路等の建設促進。

- (三) 函館空港滑走路延長工事の早期着工。
- 二、テクノポリス函館計画の推進と企業誘致への協力強化。
- 三、国際会議も可能な大型催事会場（スポーツセンターも兼ねる）の誘致促進。
- 四、青函トンネル開通記念博覧会開催への強力な応援。
- 五、道南の大型観光開発に対する指導と協力。

間交流）にのっとって経済、文化、人の交流を一層高めていくために、今後の青函経済交流の進め方について種々協議しました。

青森側からは、地方の時代を打ち出した三全総（定住圏構想）は、予想を上廻るサービス産業の成長等のため人口は益々大都市へ集中し過密、過疎問題は一層深刻化し、地域格差は逆に拡大の傾向にある。四全総ではこれらを踏まえ、多

極分散型の国土形成を柱にしており、地元関係では青函インターブロック構想として新しい経済文化圏の形成が提言されている。特に両地域の共通点としては、(一)新しい青函圏の流通拠点である港湾の振興を図る (二)新規広域観光ルートの設定等により通年観光を目指す (三)テクノポリス計画を推進し、夫々の地域の特性であるマリオン及び・アグリバイオテクノロジを駆使した産業の振興を図って行く等々がある。またその推進に当っては青函トンネル開通を契機に、先ず相互理解を深めることが肝要である旨の提言がありました。

一方函館側からは整備五新幹線の逐次着工について、その優先順位の決め手は、単に東北新幹線盛岡―青森間の着工ということではなく、日本列島を新幹線で結ぶという基本的な立場から、青函トンネルを活用し、北海道の函館地域まで着工することに、他ではみられない大義名分があるので、双方が協調して強力に運動を展開して行くべき旨提言しました。

最後には今後共一層交流を進めることを約して閉会しました。

観光客増遇には心をこめて 観光従事者セミナー開催

今年は函館の観光客入込み数が史上最高を記録する見込みであり、観光関連業界は様に活況を呈し、先の日銀函館支店の発表でも観光収入は年間五百億円に上ると推計されているように景気の回復にも大きく貢献しております。明年は青函博の開催で更に大勢のお客様の来函が期待されています。このような背景のもとで、函館



の印象を良くも悪くもする接客の第一線に立つ従業員に対し、今後の函館観光振興のため、尚一層の接客技術の向上に役立てていただくため、本所では去る十一月六日「函館観光発展」あなたが主役ですのテーマで講習会を開催しました。経営コンサルタントの森谷靖武講師は先ず、青函博は全国に

ファンをつくる絶好のチャンスであるとし、次に生活の多様化、個性化がすすむ中で観光客の期待するものが変わってきていることの具体例をあげ、それに対応する接客のポイントと真心こもった接客行動について解説しました。約七十名の参加者のなかには予定時間を超えて質問する方もあり終始熱心に聴講しました。観光客が帰られてから、地元の知人友人に函館観光をすすめてくれるような心をこめたサービスが強く望まれているところです。

テクノ函館へ大きな一歩 地域工業技術促進協

昨年十月「テクノポリス函館」の中核となる研究施設として、道立工業技術センターが竣工、開館し既に地域産業に対する技術指導や助言などを通じ技術水準の向上をはかっています。さらに新製品の企業化を促進するためのメカトロニクス、新素材、バイオテクノロジなど先端技術の応用につ

いての研究開発を行なうなど、広く事業展開をしてきており、テクノポリス推進に寄与するところ極めて大きなものがあると期待されております。このように同センターは、地場企業との共同研究のほか、試験分析や技術交流の場を提供するなど、企業の技術力の向上を積極的に支

援し、企業と共に歩む開かれた研究機関をめざしているところに、従来の研究機関から一歩進んだ特色があります。

本所の工業部会、農水産部会における討議の中で、地場企業が同センターを積極的に活用することが、今後当地域の工業振興に欠かせない要因であるとの関連業界の一致した意見が出されたこともあり、機械金属造船工業協同組合連合会、水産連合協議会、建設業協会が中心となり、約七十社をもつて去る十月二十七日、函館地域工業技術高度化促進協議会が設立されました。

協議会では、昭和六十二年度事業計画として、
一、研修事業等への積極的参加
二、先進地域技術交流研修の実施
三、先端技術情報の収集・提供
四、センター研究員との意見交換を定め、本所村瀬副会頭を会長に加藤、高野両副会頭を夫々副会長に選任しました。協議会の活動により同センターが地元に着した研究機関として、テクノポリス函館の推進に大きな役割を果たしていただけることが期待されています。



事務局日誌

10月

- * 正副会頭会議
20(火) 第42回正副会頭会議
- * 会議(日商)
15(木) 第356回常議員会
- * 会議(道商連)
29(木) 第4回運営委員会
◇ 第129回全道商工会議所専務理事・事務局長会議
- * 審査会
6(火) 小企業等経営改善資金の審査会
22(木) ◇ ◇
- * 諸会議
1(木) 北海道縦貫自動車道(函館～虻田間)建設に関する道との打合せ
5(月) みなみ北海道広域商工振興連絡協議会
7(水) '87渡島地域ニューフロンティア・フェスティバルに係る担当者会議
◇ 昭和62年度分野調整指導調査員連絡会議
8(木) 函館発明協会特許行政普及説明会
9(金) '87渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル第2回実行委員会
◇ 婦人会例会
12(月) 函館市交通事業経営審議会
13(火) 函館圏企業誘致推進協議会第3回幹事会
14(水) 函館市青少年問題協議会部会
◇ 函館港利用促進協議会設立総会
16(金) 財政金融懇談会
◇ 特定地域診断検討委員会
17(土) 函館市交通事業経営審議会
23(金) 昭和62年度渡島地域商工業振興対策会議
◇ 第13回情報化シンポジウム
24(土) 青森商工会議所青年部との懇談会
26(月) 全国いか加工業協同組合臨時総会
北海道中小企業団体中央会地域問題懇談会
◇ 経営者協会金曜会
◇ 函館市都市計画審議会
27(火) 全民労協と北海道経営者協会幹部との懇談会
28(水) 寺山北海道審議室長との懇談会
30(金) 函館財務事務所地域経済調査研究会
◇ 所報「ともえ」No.81(11月号)編集会議
31(土) 青函博実行委員会宿泊部会正副部会長会議

- * 陳情・要望
14(水) 新幹線早期着工に関する陳情
- * 講習・催物
1(休) 記帳講習会
2(金) 道立工業技術センター開所1周年記念講演会
3(土)・4(日) 'ハイテックフェスティバル「いかと昆布」の科学展
6(火)～12(月) 第10回おいでやす大京都まつり
6(火) 実践資金繰りセミナー「ゆとりある経営計画のたて方」
7(水) 記帳講習会
9(金) 法律相談
10(土)～11月3(日) 現代書の父、金子鶴亭60年のあゆみ展
14(水) 経営相談
15(木) 記帳講習会
15～20(火) '87渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル
20(火) 業種別経営講座
「食生活の変化に対応した水産関連業界のあり方」
21(水) 発明相談
22(木) 記帳講習会
22(木)～27(火) 第12回市民アイデア作品展
27(火) 経営者協会セミナー「労働時間管理50のポイント」
- * 検定試験
7(水) 第15回2級販売士検定試験
- * 刊行物
20(火) 所報「ともえ」No.80(10月号)発行
- * 相談・診断
金融 154 税務 66 経理 53 経営 176
労働 7 取引 0 その他 1 計 457
- * 貸室
本館 28 別館 21
- * 文書
受信 232 発信 13
- * 慶弔・その他
3(土) 函館市銭電沢商工会館落成式並びに祝賀会
4(日) 北海道日本料理研究会第38回全道大会
5(月) 函館郵便局長との懇談
7(水) 青森EXPO'88キャラバン隊表敬訪問
8(木) 開所記念日
9(金) 函館警察官友の会警察施設見学会
10(土) 第28回北海道生花商協同組合全道大会
12(月) 郵便貯金キャッシュサービスコーナーオープンセレモニー
12(月)～16(金) 経営指導員研修
13(火) 東邦生命函館支社謝恩の夕べ
19(月) 湯川温泉街診断
21(水) 樺二森屋顧問荻野佐太郎氏ご逝去
22(木) 北海道運輸局長芳野幸男氏来函に伴う交歓晚餐会
◇ 小樽商店街視察団来函
23(金) 第3回電信電話記念日祝賀会
◇ 函館市功労者中野真輔氏を祝う会
24(土) 新制(社)函館市医師会発足40周年記念式典並びに祝賀会
26(月) 経営指導員研修
29(木) 三菱グループ青函博出展発表記者会見並びに昼食会
31(土) 第12回NHKと市民との懇談会

大衆温泉浴場

日乃出湯

湯川植物園向い TEL 57-8692

ル生産。また、化学肥料でも春耕用需要に備えて順調な生産。一方、漁網では刺網等の更新需要が純化しているため、生産は引き続き抑制。

(4)建設関連

公共工事発注額は、補正予算に係る追加発注や積極的な前倒し発注姿勢を映じて前年を大きく上回っている（主要5官庁の発注額累計前年比+24%）ほか、民間建築工事も住宅、マンションを中心に好調を持続。こうした状況から、地場建設筋では大手企業を中心に活況を呈しているが、木・製材、鋼材等一部建設資材の需給逼迫からその手当に奔走したり、技能工の不足を訴える向きが散見される。

(5)農 業

農作物は大半が収穫を終えたが、その作柄は台風12号襲来に伴う塩風害が響き、主力水稻が「やや不良」～「かなり不良」となったのをはじめ、その他作物も「並」～「かなり不良」となり、全般的に不作となった模様。

(6)漁 業

近海マイカ漁（渡島・松山支庁調べ、9月末現在）は、南下群の来遊待ちながら、引き続き順調な漁模様で、6月以降累計では水揚量14.2千t（前年比4.9倍）、金額65億円（同2.5倍）と好調。一方、秋サケ定置網漁は、海水温の低下が遅れていることなどからやや低調。

(7)消費動向

9月中の市内大型小売店（10ヶ店）の売り上げは、秋冬物衣料品、家具、家電製品が好

売れ行きを示したものの、一部百貨店の催事手控えが響き、全体では前年実績を下回った（前年比△2.4%）。一方、耐久消費財では、家電製品が大型カラーテレビ、VTR、電子レンジ、冷蔵庫等を中心に引き続き好調な売れ行きを示しているほか、自動車販売もニューモデル車を中心に引き続き堅調（9月中管内新車販売台数前年比+1.1%）。また、観光・レジャー面では、秋季観光が例年になく盛り上がりを見せており、ホテル、旅館、土産物店等関連業界は引き続き好調。

3. 金融事情（9月中）

○管内金融機関の実質預金は、法人筋の期末協力預金を中心に月中124億円の増加（前年は8月末休日に伴う高止まりの反動から月中90億円増）。一方、貸出は、水産関連の原魚買付資金や卸・小売筋の期末決済資金等を中心に、月中141億円の増加（前年129億円増）。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、低利な季節資金の増加もあって、月中△0.060%と引き続き低下（前月△0.026%）。

○銀行券は、観光・レジャー資金、前月末支給の公務員寒冷地手当等の順調な還流から50億円の大幅還収超（前年同38億円）。

○財政収支は、公共事業関係費の支払いが増加したものの、運用部の貸付金回収や保険の受入が高んだため、月中71億円の受超（前年同69億円）。

9月

昭和62年10月23日

地域の

景況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、農作物の収穫は不芳となった模様ながら、公共工事、民間建築の盛行や個人消費の堅調持続に加え、製造業では前向きな生産を企図する先が広範化しており、設備投資や雇用増を図る向きもみられるなど、管内景況は総じて回復基調にあるように窺われる。

○すなわち、企業の生産活動面では、造船、漁網等一部の先がなお不振を託っているものの、公共工事、住宅建築の盛行を映じてその関連業界（合板、合板機械、木・製材、生コン）が、活況を呈しているほか、電子部品等でも内外需要の回復から生産を引き上げており、水産加工、飼料・魚油でも原魚手当の順便、採算の好転から前向きな生産を行なっている。また、建設も、補正予算に係る公共工事の追加発注や旺盛な民間建築により盛況裡に推移。さらに、個人消費も耐久消費財を中心に引き続き堅調。

この間、製造業の設備投資、雇用面の動きをみると、業況好調な合板、木・製材等の業界を中心に合理化・能力増強投資や臨時工の増員等に踏切る先が増加してきている。

○金融面では、期末決済資金や原魚買付資金等季節需資を中心に増加したものの、なお全体の資金需要を盛り上げるには至っておらず、管内銀行の貸出約定平均金利も前月に引き続き小幅低下。

2. 主要業種別動向

(1) 機械

造船では、新造船部門は既受注分の進水に伴ない船台空きとなっているが、修繕船・陸機部門の受注・生産は比較的堅調に推移。電子部品では、内外需の回復を映じて注文が期を追って増加しているため、作業時間の拡大、臨時工の増員等により増産を図っている。また、合板機械、製缶機械でも注文が相次ぎ、受注消化のため時間外勤務の拡大等により増産体制を強化。

(2) 食料品

水産加工では、目先年末需要に対する消費地問屋筋からの引き合いが順調なため、前向きな姿勢で備蓄生産を行なう先が多い。飼料・魚油では、イワシ豊漁、市況持ち直しから高操業を持続。一方、乳加工品では主力市乳、粉乳の生産・出荷は順調に推移。

(3) その他製造業

合板（薄物）では、住宅・家具・家電向け出荷が好調で、市況も高騰しているため、目一杯のフル生産を継続。また、最近の建設工事の増加を映じて、木・製材、床板等の荷動きも活況を呈しており、これらのメーカーでは合理化、能力増強を企図した設備投資の動きがみられる。段ボールでも、馬鈴薯、長ねぎ等農作物の出荷最盛期入りに伴ない荷動きが活発化しているため、フ

【卸売業】

今期比D I 17.0、前年同期比D I 0.0と今期比ではD I がプラスを示している。

細業種でみると、医薬品・化粧品業と燃料業は減収を予想しているが、逆に食料品業、一般機械器具業、建築材料業は増収を見込んでおり、その他はほぼ横ばい状態が予想される。

【小売業】

今期比D I 24.0、前年同期比D I 26.4といずれもD I がプラスを示し、増収を見込んでいる。

細業種でみると、D I がマイナスを示しているのは前年同期比での各種商品販売業だけで、他はすべて横ばいまたは増収を見込んでおり、特に衣服・身の回り品販売業、自動車販売業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示している。

【サービス業】

今期比ではD I 0.0とほぼ横ばい、前年同期比ではD I 9.1とやや明るい見方をしている。

細業種でみると、自動車整備業は今期比でD I がマイナスを示し減収を予想しているがその他ホテル・旅館業、クリーニング・理美容業、娯楽業等は、やや業績好転を予想している。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業9.9%に対し、「悪化」とみる企業8.9%でD I 0.1を示し、「変らない」とする企業が81.2%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I △10.0、製造業D I △7.4、卸売業D I 5.8、小売業D I 7.6、サービス業D I 4.4を示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変らない」としている。

統計資料

第一種函館市内大規模小売店舗売上高（10店） 昭和62年9月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	2,686,690	122.9	101.5
身回品	461,528	102.8	95.2
雑貨	549,728	92.6	88.8
家庭用品	724,622	107.1	102.2
食料品	1,447,876	78.6	98.4
食堂・喫茶	158,047	75.0	96.0
サービス	64,090	97.2	88.3
その他	402,341	102.0	82.7
総計	6,494,922	101.2	97.6

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショッパーズプラザ湯の川店の各店をいう。

ない」とする企業が7割以上を占め、前期並みを示している。

5, 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で33.3%を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業9.5%、製造業32.9%、卸売業40.5%、小売業41.1%、サービス業20.0%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」・「純利益の減少」がそれぞれ19.0%、製造業では「純利益の減少」19.0%、「景気の見通し難」15.5%、卸売業では「販売価格の値下り」・「純利益の減少」がそれぞれ13.0%、小売業では「求人難・人材難」15.7%、サービス業では「同業者の競争」40.0%、「収容能力の狭小」15.0%等となっている。

来期（10月～12月）の見通し

1, 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ、「好転」するとみる企業28.0%に対し、「横ばい」企業58.9%、「悪化」するとみる企業13.1%でD I 14.9、また前年同期比でみると「好転」するとみる企業25.2%に対し、「悪化」するとみる企業11.2%でD I 14.0と、いずれもD I がプラスを示し、好転を予想している。

業種別にみると、今期比では建設業がD I 4.8、製造業D I 16.6、卸売業D I 14.3、小売業D I 18.5、サービス業D I 13.1と、すべてD I がプラスを示し、引き続き明るい見方をしている。

また、前年同期比でみても卸売業(D I 0)以外はすべてD I がプラスを示し、好転を見込んでいる。

このように来期業況見通しは、引き続き好転が予想される。

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

	(D, I) 好転	横ばい	悪化
全業種 (14.0)	25.2	63.6	1.2
建設業 (20.0)	40.0	40.0	20.0
製造業 (17.3)	27.6	62.1	10.3
卸売業 (0.0)	11.1	77.8	11.1
小売業 (23.1)	32.7	57.7	9.6
サービス業 (13.6)	22.7	68.2	9.1

2, 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業35.1%に対し、「横ばい」企業48.8%、「減少」するとみる企業16.1%でD I 19.0とプラスを示し業績好転を見込んでおり、また前年同期比でも、「増加」企業28.9%に対し、「横ばい」企業57.7%、「減少」企業13.4%でD I 15.5とプラスを示している。

図-6 来期の売り上げ見通し（対前年同期比）

	(D, I) 好転	横ばい	悪化
全業種 (15.5)	28.9	57.7	13.4
建設業 (42.9)	52.4	38.1	9.5
製造業 (11.1)	22.2	66.7	11.1
卸売業 (0.0)	17.6	64.8	17.6
小売業 (26.4)	39.6	47.2	13.2
サービス業 (9.1)	22.7	63.7	13.6

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

【建設業】

今期比D I 23.8、前年同期比D I 42.9といずれもD I がプラスを示しており、特に前年同期比では過半数の企業が「増加」と回答しており好転を見込んでいる。

【製造業】

今期比D I 22.2、前年同期比D I 11.1といずれもD I がプラスを示している。

細業種でみると、漁網業と造船業は依然厳しい見方をしているが、他は総じて上向き基調を予想しており、特に水産加工業、飲食料品業、窯業・土石製品業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示している。

示している。

このように今期の建設業界は、公共事業、住宅建築の盛り上がりから、引き続き好調に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I 13.8、前年同期比D I 1.8といずれもDIがプラスを示している。

細業種で見ると、造船業は前期比、前年同期比ともD Iがマイナスを示し依然として減収を訴えているが、他の業種は全般的に上向いており、水産加工業、窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業でD Iがプラスを示している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I 14.6、前年同期比D I △7.2と前期比ではDIがプラスを示し、増収基調で推移した。

細業種で見ると、燃料業は前期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し低迷が続いているが、逆に一般機械器具業と建築材料業はともにD Iがプラスを示し増収傾向となった。その他の業種は、前期比では業績好転しているが、前年同期比では悪化ぎみに推移している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I 14.9、前年同期比D I 21.2といずれもD Iがプラスを示している。

細業種で見ると、各種商品販売業は前期比前年同期比ともにD Iがマイナスを示し減収を訴えているが、逆に衣服・身の回り品販売業、食料品販売業、自動車販売業はともにD Iがプラスを示し増収基調で推移した。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 30.4、前年同期比D I 29.1といずれもD Iがプラスを示し、業績は好転している。

細業種で見ると、好調な観光客入込みを背景にホテル・旅館業は前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示して好転しており、娯

楽業も同様傾向となっている。しかし逆に、クリーニング・理美容業と自動車整備業は減収基調で推移した。

3、純利益について

今期の純利益を全業種で見ると、前期に比べて「増加」している企業27.9%に対して、「横ばい」企業45.1%、「減少」している企業27.0%でD I 0.9、また前年同期比でも「増加」企業28.5%が「減少」企業26.6%を上回ってD I 1.9と、いずれもDIが若干プラスを示し採算面でもやや上向いている。

業種別にみると、卸売業の一般機械器具業、建築材料業、小売業の衣服・身の回り品販売業、食料品販売業、自動車販売業、サービス業のホテル・旅館業、娯楽業がそれぞれ増益基調で推移した。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (1.9)	28.5	44.9	26.6
建設業 (-14.3)	14.3	57.1	28.6
製造業 (-13.3)	25.0	36.7	38.3
卸売業 (-5.4)	25.0	44.6	30.4
小売業 (22.6)	39.6	43.4	17.0
サービス業 (25.0)	33.3	58.4	8.3

4、資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」した企業15.5%に対し、「悪化」した企業8.7%でD Iは6.8を示し、「変わらない」とする企業が75.8%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみると、サービス業 (D I 33.3) が大幅に好転しているが、他はすべて「変ら

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (6.8)	15.5	75.8	8.7
建設業 (0.0)	10.0	80.0	10.0
製造業 (-3.4)	11.9	72.8	15.3
卸売業 (5.7)	11.5	82.7	5.8
小売業 (9.8)	15.7	78.4	5.9
サービス業 (33.3)	37.5	58.3	4.2

経済の窓

(昭和62年度 第2・四半期)

景気動向
調査

昭和62年度第2・四半期(昭和62年7月～9月)の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	281社	71.1%
建設業	50	32	64.0
製造業	100	75	75.0
卸売業	80	65	81.3
小売業	120	77	64.2
サービス業	45	32	71.1

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(7月～9月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種でみると前期に比べ「好転」している企業37.9%に対し、「横ばい」企業46.2%、「悪化」している企業15.9%で、D Iは22.0とプラスを示している。

これを業種別にみると、建設業D I 23.9、製造業D I 20.4、卸売業D I 23.2、小売業D I 18.5、サービス業D I 29.1といずれもD Iがプラスを示し好転している。

また、今期の業況を前年同期比でみると、全業種では「好転」企業35.3%に対し、「横ばい」企業47.8%、「悪化」企業16.9%で、D Iは18.4を示しており、前年に比較しても好転基調で推移した。

これを業種別にみると、すべての業種でD Iがプラスを示し好調に推移しており、特に建設業(D I 44.4)では「悪化」と回答した企業はなかった。

このように今期の業況は、個人消費、生産活動が比較的好調、建設は受注増で盛り上がりを見せ、観光関係も入込数の順調な伸びから更に上向く等、引き続き堅調に推移した。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(18.4)	35.3	47.8	16.9
建設業(44.4)	44.4	55.6	0.0
製造業(3.4)	30.5	42.4	27.1
卸売業(5.4)	23.6	58.2	18.2
小売業(31.4)	45.1	41.2	13.7
サービス業(37.4)	45.8	45.8	8.4

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業37.9%に対し、「横ばい」企業40.8%、「減少」している企業21.3%で、D Iは16.6とプラスを示し増収基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比でみると全業種では「増加」企業34.6%に対し、「横ばい」企業42.3%、「減少」企業23.1%で、D I 11.5とプラスを示し業績好転している。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(11.5)	34.6	42.3	23.1
建設業(45.0)	55.0	35.0	10.0
製造業(1.8)	28.6	44.6	26.8
卸売業(-7.2)	23.2	46.4	30.4
小売業(21.2)	40.4	40.4	19.2
サービス業(29.1)	45.8	37.5	16.7

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 19.0、前年同期比D I 45.0といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみると、総合工事業と設備工事業が前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを

プリント
榮
 びん

トラブルにまきこまれない為に!

印鑑の知識と保証人
 になる時の留意点

◀2▶

●著者/弁護士 渡部 喬一

つたものであることを明らかにするため、文書の綴じ目に押す判のことをいいます。契約書に押す契印は、契約当事者双方が契約書に用いた判を、契約書の全頁にわたって押す必要があります。但し、

袋とじの場合には、その綴り目1ヶ所に押せばよいのです。契約は、文書の差し替えや抜き取りなどを防ぐために行われるので「割印」ということもあります。また同じ文書を二通以上作成したとき、その両方にかかるように、ずらして押す印影のことを、契印・又は割印ということもあります。こちらの方は、その文書の同一性ないし、関連性を明らかにするために押されるものです。

3 契印・割印・訂正印・捨印・消印の意義と押し方
 印鑑に関わる用語の中で、印鑑や印章等の意味は前号に説明したとおりですが、次に、判を押す際に問題となるいくつかの用語について説明しましょう。
 ①契印とは、文書が二枚以上になつたるとき、その文書が一体とな



②訂正印とは、文書に記載した文字を直したとき、文書の作成者が、その事実を明らかにし、後日の紛争を防止するために押される印のことをいいます。訂正印の押し方は、普通、縦書の場合は、訂正した個所の上部欄外に「2字訂正」とか、「3字削除」とか、訂正を加えた文字の数を明記し、その様に、当事者双方が押印します。横書きの文章であればその横に同様の処理をします。また、訂正印は文書の訂正個所に押すこともあります。しかし、この方法は、文字が読みにくくなりますし、訂正の内容が不明確になるのであまりおすすりできません。訂正の仕方

趣味の陶磁器・硝子食器・御進物品・各種営業用食器、名入調製いたします。

高級陶器ガラス器
 漆器・ホーロー・ステンレス食器専門店

カルナニ陶器店

函館市末広町5-16(十字街電停前)
 TEL (0138) 23-1361

「歳末大売出し」

期間 12月16日～12月26日

全商品 3割引!

※ジャックス・函館専門店会加盟店

同じ場合には「3字訂正」等と記載すればよいでしょう。削除の字数と加入の字数が異なる場合には、



は、次のようにします。まず、ある文字を削除する場合は、「2字削除」、「3字抹消」等と欄外に記載し、削除する文字の上に2本線を引きます。次に、ある文字を付け加える場合には、3字加入等と欄外に記載し、本文中で、どこに加入するかを明らかにします。また削除する字数と、加入する字数が

3字削除・4字加入等とすればよいでしょう。

捨印とは!

③ 捨印とは、文書に、後日訂正できるように、あらかじめ押しておく訂正印のことです。実務上は、弁護士や司法書士に交付する委任状、官庁に提出する各種書類等に押すことが多いようです。こうした書類は形式が厳格ですから、後日、語句の訂正が必要となる場合が多いからです。しかし、一般の契約書等に訂正印を押すことは危

険です。捨印を悪用して、文書の内容を変更されるおそれがあるからです。こうしたことを防ぐためには、捨印はできる限り押さないことです。また、やむをえず押した場合には、契約書なら、1通を確実に保存しておくことが大切です。相手方に渡した契約書が仮りに訂正されたとしても手許の契約書には訂正が行われていないからです。

④ 消印とは、文書に収入印紙を貼った場合、その印紙を他の目的に使えないように、文書作成者が印紙と文書にまたがって押す印のことです。消印に使用する印は、その文書に使用した印が適当ですが、別の印でもかまいませんし、当事者が収入印紙と文書にかけてサインをしてもよいのです。消印をしなかった場合は印紙税法違反として、1万円以下の罰金又は科料に処せられる他、消印しなかった印紙の額面全額に相当する金額の過怠税が課されることとなります。従って、文書を作成した後、消印をしていないことに気付いたら手持のハンカ、サインで消印することが必要です。



建築・設計・施工

(有)宮 建設

宮寒地住宅設計事務所

代表取締役 宮 元 俊

函館市人見町26番12号

電話 (0138) 54-5189番